

文化財保存科学研究部会

部会長 大庭卓也

令和四年度は、新型コロナウイルス感染症の流行がまだ完全に終息しておらず、学外での催しを主とする久留米緋頭彰班の活動は自粛した。

筑後の伝統工芸の魅力を広く伝えるべく発行している『伝統工芸の国・筑後』については、予定通り第五号を発行した。今号は前号に続いて、久留米藍胎漆器塗師の井上正道氏と狩野啓子名誉教授との対談を掲載した。対談は藍胎漆器存続のための様々な課題におよび、第三号から掲載し始めた井上、狩野両氏の対談は、今号をもって完結した。

第五号は筑後地方の主要機関へ郵送するとともに、西鉄久留米駅構内の本学のパンフレット棚に設置し、さらに本部会のホームページ上にも掲載して、国内外の人々の閲覧に備えることとした。

WEB サイト

<https://kurumebunkazai.jp/>



井上正道氏（藍胎漆器塗師）の話を聴く（三）